



■被災地出張授業 ……11月2日

これからの国際社会に生きる君たちへ —生きがいのある人生を送るために—

講師:北城 悟太郎 元代表幹事(日本アイ・ビー・エム 相談役)

IPPO IPPO NIPPONプロジェクトによる被災地出張授業が行われた。今回は、北城悟太郎元代表幹事が岩手県立久慈東高等学校を訪れ、1年生(201名)を対象に、働くことの意義やこれからの社会で求められる人材像について語った。



「きっかけ」を捉えて 将来に活かす

私は中学生のとき、先生に「君は英語の成績が良くないね」と言われました。その一言が悔しくて、高校で英語を猛勉強しました。そして外資系のコンピュータ関連の仕事に就いたとき、英語を勉強したことがずいぶんと役に立ちました。人生には、ちょっとした「きっかけ」が、将来を左右することがあります。皆さんには「きっかけ」をしっかり捉えて、将来に活かしてほしいと思います。

現在、日本では就業人口の約8割の人が「会社」という民間企業の組織で働いています。就職することを考えたとき、おそらく多くの方は、働くなら大企業がいいと思うでしょう。しかし、10年という長さで企業を見ると、全く別の見方ができます。ここに1994年から2004年の10年間、企業が人をどれだけ採用し、また減らしていったかというデータがあります。これを見ると、事業所のうち、存続している事業所は541万人採用していますが、794万人を減らしてきています。また倒産などの事業所の廃業により、失業した人は2,094万人います。一方、新規事業所では2,115万人を採用しています。このデータから分かることは、雇用を創り出しているのは、新しい会社、ベンチャー企業だということです。

当然、新しい会社は、初めは小さな会社です。今では大企業のホンダやソニーも初めはベンチャー企業で小さな会社でした。つまり、大きな会社だから良い、ということはないのです。

人や社会の役に立ち 達成感を得る喜び

どのような会社にせよ、働くことの意味として共通しているのは、「人のため社会のために役立っている」ということです。同時に「社会に貢献することで収入を得て、自分や家族の生活を支えている」ことです。そしてもう一つ、「働くことによる達成感から喜びが得られる」ということです。

私は、ATMをコンビニに普及させる仕事に携わりました。消費者には便利になったと喜ばれ、コンビニには売り上げがあがったと喜ばれたことは、私にとっても達成感があり、喜びが得られた仕事でした。

人は20歳ぐらいから60歳ぐらいまで、約40年もの間働くことになりますので、将来、どんな仕事に就き、どんな形で社会に貢献するのかを、よく考えることが大切です。

グローバルな視点で 仕事をする

今、世界的に景気が悪いと報道されています。世界には貧困・飢餓で苦しむ国、紛争の絶えない国があり、多く

の課題を抱えています。こうした課題解決のためにも、これからは世界の国々とかかわり合いながら仕事をするようになります。また、中国やインドのように、大きな成長が予想されている国の人を相手に仕事をする機会も増えてくるでしょう。これからはグローバルな視点を持つことがとても重要になります。

戦後は貧しかった日本も、アメリカやヨーロッパからの知識を吸収して追いつくことができました。しかし、このままでは中国やインドに負けてしまうでしょう。これからは、得た知識を使い、新しいことに挑戦しなければなりません。

仕事について周りの大人と 話し合ってほしい

では、具体的に今、何をすればいいのでしょうか。それは、まず自分の関心のある分野は何か、将来どんな仕事をしたのかを探ることだと思います。それが見つければ、学校で良い成績をあげるだけでなく、そのために何を学ばばよいか分かってくるからです。なかなか見つからない場合は、尊敬できる人を探すのもよいでしょう。その人がきっかけになるかもしれません。また、保護者や先生、周りの人がどんな仕事をしているのかを調べてみるのもいいと思います。世の中にいろんな仕事があることに気付くでしょ

う。そして、なぜ今の仕事に就いているのか聞いてみてください。いろんな大人と仕事について話し合うことが大切だと思います。

「あ・た・ま」を忘れずに

最後に、皆さんに伝えたいことがあります。私が管理職になったとき、三つのモットーを掲げました。まず、明るく仕事をするということ。次に、ど

んな仕事でも楽しさ面白さを見つけること。最後にいつも前向きでいること。この言葉の頭文字をつなげると「あ：明るく」「た：楽しく」「ま：前向きに」となります。

これから、試験の成績が悪かったり、やりたいことがなかなか見つからなかったりして、落ち込むこともあると思いますが、明けない夜はありません。悪いことばかりは続きません。要は、そこで落ち込んだままではいるか、必ず夜



は明けると考えるかなのです。明るく、楽しく、前向きに、「あ・た・ま」を忘れないでください。

生徒との質疑応答

Q 就職試験では、どんなところを見られているのですか？

A ほとんどの会社は、面接を重視しています。まずは「熱意」。高校時代に熱意を持って取り組んだことがあるかと



いうこと。次に「行動力」。熱意を行動に移したかどうかということ。次に「コミュニケーション能力」。仕事は一人ではできません。必ず誰かとかがわりながらやります。そのとき、自分の考えを相手に伝えなければなりません。そのためには、相手の人が何を考えているかを理解して、相手に分かるように話さなければなりません。次に「論理的な思考」。いくつかの中から一つを選んだ場合、なぜそれを選んだのかを説明できること。そして「自分で課題を見つけ出し挑戦する」こと。この五つが面接のときに見られます。このような経験を高校時代にやってきた

か、挑戦してきたかを面接のときに話せるかどうかです。

Q 将来のことで大きな決断をするときの心構えを教えてください。

A 将来のことはやってみなければ分かりません。だから、少しでも興味があれば、取りあえずやってみてください。もし、途中で他のことに興味を持ったら、方向転換してもいいのです。思い悩んで何もしないよりは、やってみること。そして、努力すること。努力すれば、うまくいなくても悔いは残りません。それから、自分は元気だと言いつけさせることも大切です。そうすると人間は元気になれます。

生徒の感想

●仕事には、倫理観や価値観を必要とし、何よりコミュニケーション能力を必要としていることが分かりました。人見知りである自分にとっては、とても大きな課題ですが、努力して、少しでも高めることができるよう行動していきたいと思いました。

●自分の進路には不安がありましたが、北城さんの「自分の人生は自ら決める」という言葉を聞いて、何か自信を持つことができました。周りの大人がどんな仕事をしていて、なぜその仕事を選んだのか聞いてみたいと思います。そして、いろんな仕事に興味を持ってみたいと思います。

●「熱意を持ち、自ら学ぶという意思が重要」という点が私には足りないとい

気が付くことができました。自分の興味があることに熱意を持って取り組めることが大事だと思いました。

●仕事や働くということの意味は、社会の役に立つことだということを知りました。そう考えると、働くということは、自分のためにも誰かのためにもなるので、すごく素晴らしいことだと思いました。そして生きがいのある豊かな人生を送るためには、自分が興味を持って心から楽しめる仕事に就くことが大切だと感じました。

●自分の力を信じて、新しい価値の創造と実行力を身に付けて、他人に流されない生き方をしたいと思いました。「人生にはきっかけがある」「あ・た・ま」など印象に残る言葉でした。

●就職試験では、面接を大事にしていることを知って、とても参考になりました

た。私も、誰よりも熱意が語れるように努力をしたいと思います。

●今回は、将来のことについてあらためて考えるともよききっかけになりました。自分の人生を無駄にしないためにも、しっかり考えていきたいと思えます。「あ・た・ま」は私のモットーにしたいと思います。

●講義を聴いて、部活や授業を悔いの残らないように、楽しくなるように頑張りたいと思いました。人生が変わったような気がします。

●自分も人のために働き、社会に貢献できる人になりたいと、強く思いました。私の母もコンビニにATMができて便利になったと言っていました。人が喜ぶような仕事に就き、それをやりがいにし、もっと新しいことや物を発想し実行に移せる人になりたいと思います。